



受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。さて、『スパークス・日本中小型株式ファンド(ラップ向け)』は、このたび、第9期の決算を行いました。

当ファンドは、主としてスパークス・日本中小型株・マザーファンド受益証券を通じて、日本の上場株式のうち中小型株に投資し、信託財産の中長期的な成長を目標に積極的な運用を行うことを基本としました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

< お問い合わせ先 >

スパークス・アセット・マネジメント株式会社
東京都港区港南一丁目2番70号 品川シーズンテラス
リテール・ビジネス・デベロップメント部
電話：03-6711-9200(代表)
受付時間：営業日の9時～17時
ホームページアドレス：<https://www.sparx.co.jp/>

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)を電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順でご覧いただけます。なお、書面をご要望の場合は、販売会社までお問い合わせください。

< 閲覧方法 >

上記URLにアクセス⇒「投資信託」より当ファンドを選択⇒「運用報告書(全体版)」を選択

交付運用報告書

スパークス・日本中小型株式ファンド (ラップ向け)

追加型投信／国内／株式

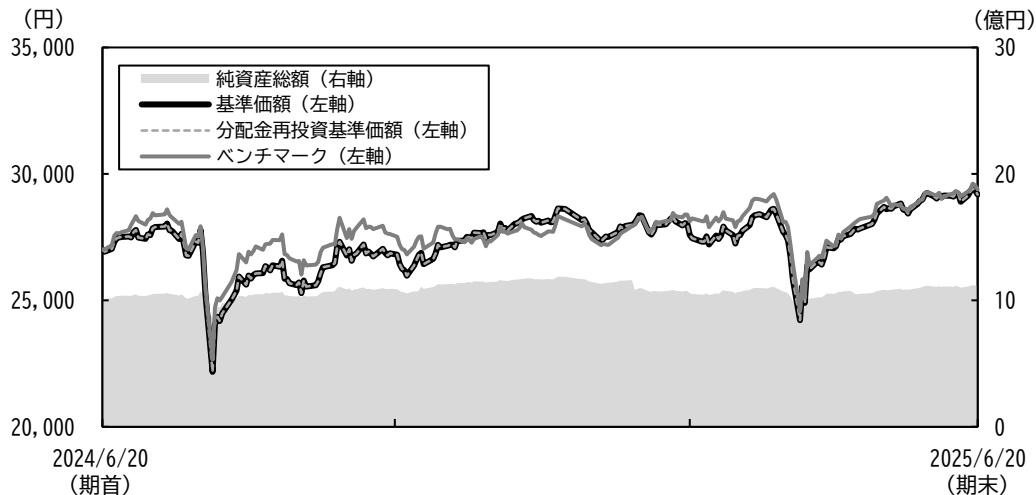
第9期(決算日 2025年6月20日)
作成対象期間(2024年6月21日～2025年6月20日)

第9期末 (2025年6月20日)	
基 準 価 額	29,185円
純資産総額	1,111百万円
第9期 (2024年6月21日～2025年6月20日)	
騰 落 率	8.0%
分配金合計	0円

(注) 謄落率は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したもとのみにして計算しています。

運用経過

■ 基準価額等の推移（2024年6月21日～2025年6月20日）



第9期首：27,016円

第9期末：29,185円(既払分配金0円)

騰落率：8.0%（分配金再投資ベース）

※ 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

※ 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

※ ベンチマークは「ラッセル／ノムラ・ミッド・スマールキャップ指数(配当込み)」です。

※ ベンチマークは期首(2024年6月20日)の基準価額に合わせて指数化しております。

■ 基準価額の主な変動要因

当ファンドは、スパークス・日本中小型株・マザーファンド（以下、マザーファンドといいます。）を通じて、日本の中小型株式に投資しております。当期は日本株式市場が上昇する運用環境の中、弊社独自の個別調査に基づき、独自の競争力を持ち長期的な利益成長が期待できる企業へ選別投資いたしました結果、基準価額は期首に比べ8.0%（分配金再投資ベース）上昇しました。

スパークス・日本中小型株式ファンド（ラップ向け）

■ 1万口当たりの費用明細

項目	当期 2024年6月21日～2025年6月20日		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬 (投信会社)	286円	1.035%	(a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ・ファンドの運用、開示書類等の作成、基準価額の算出等の対価
	(274)	(0.991)	
	(3)	(0.011)	
(販売会社)			・購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
(受託会社)	(9)	(0.033)	・ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料 (株式)	11	0.040	(b)売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ・有価証券等を売買する際に発生する費用
	(11)	(0.040)	
(c) その他費用 (監査費用) (印刷費用)	17	0.062	(c)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 ・監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 ・法定書類等の作成、印刷費用
	(3)	(0.011)	
	(14)	(0.051)	
合計	314	1.137	

期中の平均基準価額は27,654円です。

(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料およびその他費用は、当ファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

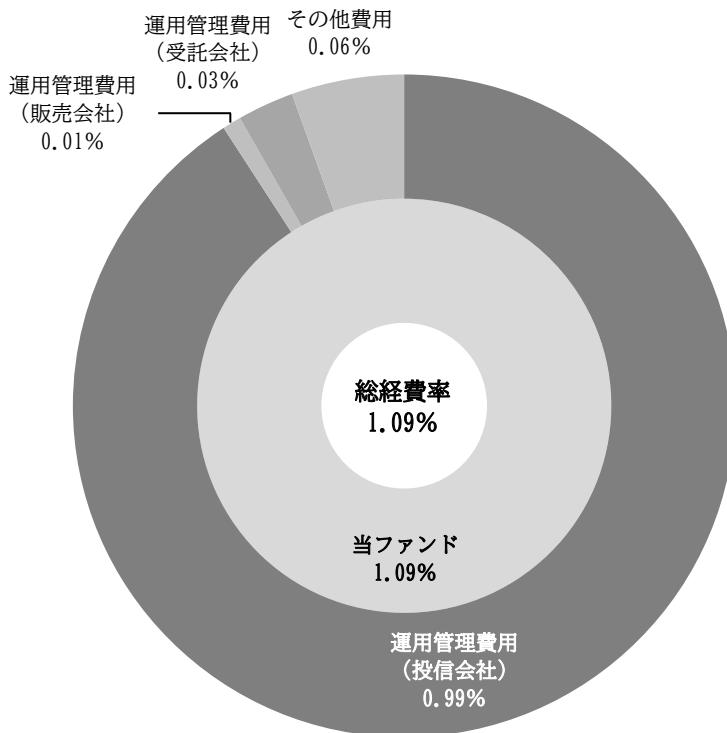
(注2) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 各比率は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○ 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.09%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

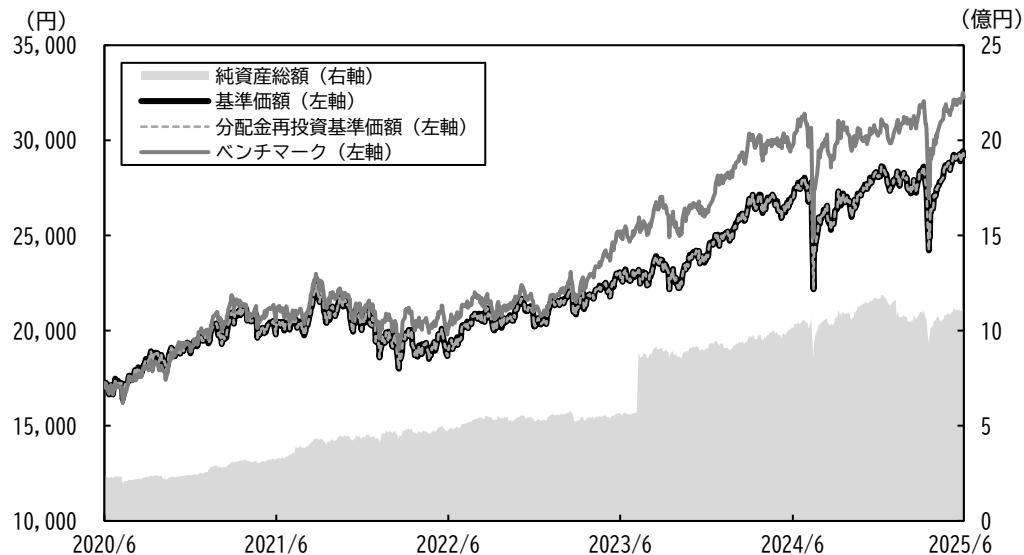
(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

スパークス・日本中小型株式ファンド（ラップ向け）

■ 最近5年間の基準価額等の推移（2020年6月22日～2025年6月20日）



- ※ 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- ※ 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- ※ ベンチマークは2020年6月22日の基準価額に合わせて指数化しております。

	2020/6/22 決算日	2021/6/21 決算日	2022/6/20 決算日	2023/6/20 決算日	2024/6/20 決算日	2025/6/20 決算日
基準価額 (円)	17,160	19,797	18,658	22,916	27,016	29,185
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 15.4	△ 5.8	22.8	17.9	8.0
ベンチマーク騰落率 (%)	—	19.6	△ 3.5	26.5	18.4	8.8
純資産総額 (百万円)	229	318	468	563	1,017	1,111

- ※ ベンチマークは「ラッセル／ノムラ・ミッド・スマールキャップ指数(配当込み)」です。
ベンチマークの詳細は、最終ページの「指標に関する」をご参照ください。

■ 投資環境

当期の日本株式市場は、通期で上昇して終了しました。前半は、日本銀行による利上げを受けて一時的に急落する場面があったものの、その後は企業業績の堅調さを背景に急速に回復しました。後半には、トランプ米大統領による保護主義的な関税政策の発表を受けて一時的にリスク回避の動きが強まりましたが、市場はこれにも冷静に対応し、結果的には良好な地合いのもとで期末を迎えるました。

■ ポートフォリオ

< スパークス・日本中小型株式ファンド（ラップ向け） >

当ファンドは、マザーファンドを通じて、日本の中小型株式に投資し、信託財産の中長期的な成長を目指す運用を行なうことを基本とします。マザーファンドの組入比率は高水準を維持しました。このため基準価額は、マザーファンドに組み入れられた資産の変動の影響を大きく受けました。

< スパークス・日本中小型株・マザーファンド >

当ファンドでは、弊社独自の個別調査に基づき、独自の競争力を持ち長期的な利益成長が期待できる企業へ選別投資いたします。また、市場における過度な悲観や関心の低下により、弊社が計測する長期的な企業価値に対して割安に放置されていると考える企業にも投資を行います。

当ファンドでは、あらかじめ業種毎の比率を決めてから銘柄を組み入れるのではなく、ボトムアップ・リサーチに基づき投資魅力が高いと考える銘柄を選別し、株価上昇余地やリスク要因、株式の流動性や株価が再評価されるまでの時間軸等を考慮して、ポートフォリオを構築しています。

当期においては、農薬や電子材料に強みを持つ中堅化学メーカーである日産化学、障害者の就労支援と発達障害の児童の支援を手掛けるLITALICO、北陸のドラッグストアチェーンであるGenky DrugStoresなどに投資を行いました。

一方で、通信工事とシステムインテグレーションを手掛けるNECネットエスアイ、マーケティングリサーチなどを手掛けるマクロミル、廃棄物処理と再資源化を一貫して行うTREホールディングスなどの株式を売却しました。

TREホールディングスについてはより良い投資機会のため銘柄を入れ替え、NECネットエスアイについてはNECによるTOB(株式公開買い付け)、マクロミルについてはMBO(経営陣が参加する買収)が発表されたことが理由です。

(主なプラス要因)

当期のパフォーマンスに貢献した主な銘柄は、武蔵精密工業、サイバーエージェント、五洋建設などです。

武蔵精密工業は、ホンダ系列の自動車部品メーカーです。当ファンドでは、EV(電気自動車)、HEV(ハイブリッド自動車)向けの新規部品採用による自動車1台あたりの同社製品売上の上昇を期待して投資を行っています。当期においては、データセンターの電力使用量を効率化し得るハイブリッドスーパーキャパシタについて市場の期待値が高まったことから株価が上昇したものと考えます。

サイバーエージェントは、ネット広告代理を祖業とし、メディア運営やゲーム開発などを幅広く手掛ける会社です。当ファンドでは、自社IP(Intellectual Property、知的財産)の創出を中心とするビジネスモデルへの転換が進むものと期待し投資を行っています。当期においては、ABEMA(動画配信サービス)の損益改善が好感されたことや、今後のIP戦略に対する期待値の高まりなどから株価が上昇したものと考えます。

五洋建設は、海上土木に強みを持つ準大手ゼネコンです。当ファンドでは、海外で発生していた不採算案件の影響が剥落し、国内の旺盛な建設需要を背景に収益性の改善が進むと考え投資を行っています。当期においては、受注の大幅な増加や株主還元の強化などが好感され株価は上昇したものと考えます。

(主なマイナス要因)

当期のパフォーマンスにマイナスに影響した主な銘柄は、アルバック、日本光電工業、ダイセルなどです。

アルバックは、強みである真空技術を駆使して、半導体やフラットパネルディスプレイの成膜用の装置等を手掛ける企業です。当ファンドでは、半導体の最先端投資の活発化による同社装置への需要拡大や、同社の製品製造工程の効率化による利益率の改善に期待して投資を行っています。当期においては、世界的なEV投資の減退を背景に、同社のパワー半導体向け装置やLiB(リチウムイオンバッテリー)向け装置に対する需要が減退し業績が下方修正されたことから株価が下落したものと考えます。

日本光電工業は、生体情報モニターなどの医療用電子機器メーカーです。当ファンドでは、医療品質の向上や医療従事者の生産性改善を背景に、同社機器群の世界的な浸透が進むと考え投資を行っています。当期においては、米国の関税に伴う業績悪化が意識され株価が下落したものと考えます。

ダイセルは、自動車部品に使用される高機能樹脂やエアバック基幹部品などを手掛ける中堅化学メーカーです。当ファンドでは、不採算事業の収束により業績悪化が一巡し、今後の事業ポートフォリオ改革に期待して投資を行っています。当期においては、米国の関税や円高に伴う業績悪化が意識され株価が下落したものと考えます。

スパークス・日本中小型株式ファンド（ラップ向け）

〔組入上位10銘柄〕

前期末(2024年6月20日)

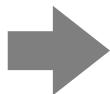
	銘柄名	比率(%)
1	前田工織	3.31
2	NECネッツエスアイ	2.85
3	日本光電工業	2.60
4	ダイヘン	2.39
5	リログループ	2.34
6	椿本チエイン	2.27
7	九電工	2.19
8	五洋建設	2.18
9	ダイセル	2.17
10	日精エー・エス・ビー機械	2.15

※ 比率は対純資産(マザーファンドベース)

当期末(2025年6月20日)

	銘柄名	比率(%)
1	前田工織	4.10
2	西日本フィナンシャルホールディングス	3.02
3	五洋建設	2.93
4	サイバーエージェント	2.84
5	リログループ	2.51
6	日精エー・エス・ビー機械	2.50
7	武藏野銀行	2.46
8	J. フロント リテイリング	2.31
9	月島ホールディングス	2.12
10	カナモト	2.06

※ 比率は対純資産(マザーファンドベース)



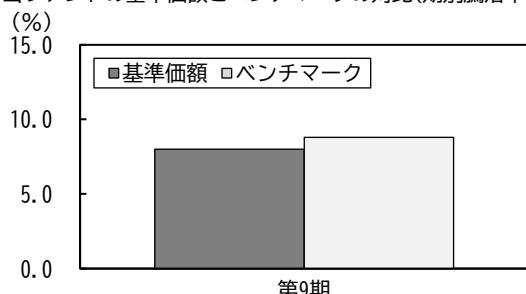
■ ベンチマークとの差異

当期、当ファンドの騰落率は8.0%となり、ベンチマークの騰落率である8.8%を下回りました。

ベンチマークとの比較において、業種効果はプラスに、銘柄選択効果はマイナスになりました。業種単位では輸送用機器、食料品、サービス業などがプラスに、電気機器、機械、金属製品などがマイナスに影響しました。

※ ベンチマークは、「ラッセル／ノムラ・ミッド・スマートキャップ指数(配当込み)」です。

当ファンドの基準価額とベンチマークの対比(期別騰落率)



(注) 基準価額の騰落率は、分配金込みです。

■ 分配金

当期の収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向等を勘案して分配を見送させていただきました。なお、留保益につきましては、信託財産中に留保し、当ファンドの基本方針及び今後の運用方針に基づき運用させていただきます。

〔分配原資の内訳〕

(単位：円 1万口当たり・税込み)

項目	第9期 (2024年6月21日～ 2025年6月20日)
当期分配金 (対基準価額比率)	— (- %)
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	19,184

(注1) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金(税込み)に合致しない場合があります。

(注2) 該当欄に数値がない場合は「-」、小数点以下の数値の場合は「0」にて表示します。

(注3) 当期分配金の「対基準価額比率」は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針

< スパークス・日本中小型株式ファンド（ラップ向け） >

マザーファンドの組入比率は、引き続き高水準を維持し、信託財産の中長期的な成長を目指に運用を行います。

< スパークス・日本中小型株・マザーファンド >

緊迫感が高まった中東情勢は足下で一旦沈静化の様相を呈していますが、米関税政策の不透明感は続いているほか、日米通商交渉の先行きはまだ見通せていないなど、世界的な地政学的リスクが意識される状況は続いています。

一方で日本経済は、賃上げの定常化による消費の回復や、深刻さを増す人手不足に対応するための設備／IT投資の増加を背景に着実な成長が見込まれます。特に日本株中小型市場においては、欧米に比べ魅力的なバリュエーションや、大型株に対して遅れているコーポレートガバナンス改革、資本収益性改善の進展などもあり、投資妙味は高まっているものと考えます。引き続きボトムアップ・リサーチを通じ、市場から見落とされている投資機会の発掘に努めます。

今後とも引き続きご愛顧を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

お知らせ

2025年4月1日付で以下のとおり投資信託約款の変更をいたしました。

- ・投資信託及び投資法人に関する法律第14条の改正に伴い、当ファンドの投資信託約款に所要の変更を行いました。

2023年11月に「投資信託及び投資法人に関する法律」の一部改正が行われ、交付運用報告書について書面交付を原則としていた規定が変更されました。本件により、デジタル化の推進を通じて顧客の利便性向上を図るとともに、ペーパーレス化による地球環境の保全など、サステナビリティへの貢献に繋がるものと捉えております。今後も顧客本位の業務運営を確保しつつ、電磁的方法での情報提供を進めてまいります。

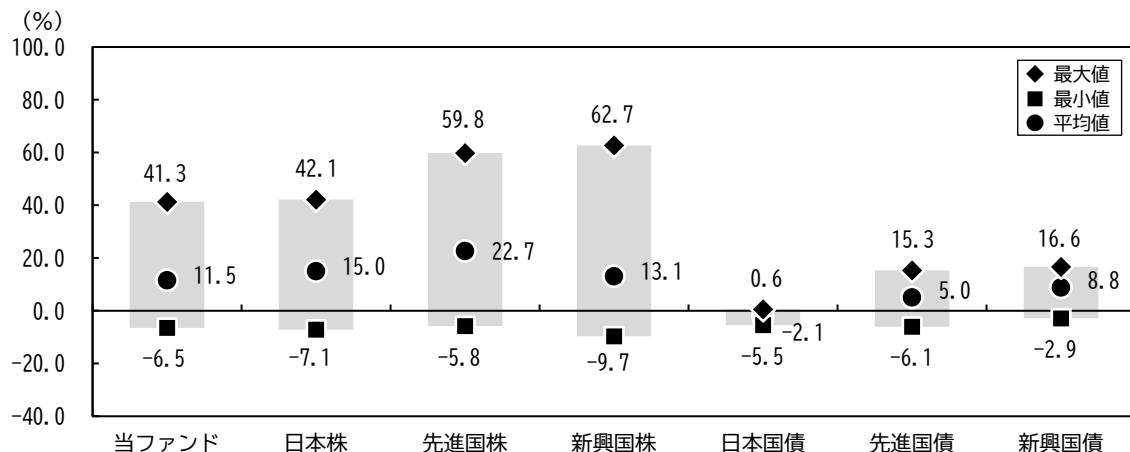
当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／国内／株式	
信 託 期 間	無期限（2016年9月23日設定）	
運 用 方 針	この投資信託は、主としてスパークス・日本中小型株・マザーファンドの受益証券への投資を通じて、日本の金融商品取引所上場株式を中心に投資を行い、投資信託財産の中長期的な成長を目標に積極的な運用を行います。	
主 要 投 資 対 象	当ファンド	主としてスパークス・日本中小型株・マザーファンド受益証券への投資を通じて、わが国の金融商品取引所上場株式に実質的に投資します。また、資金動向・市況動向等によってはわが国の金融商品取引所上場株式等に直接投資することもあります。
	スパークス・日本中小型株・マザーファンド	わが国の金融商品取引所上場株式を主要投資対象とします。
当 フ ア ン ド の 運 用 方 法	<p>① 設定当初および大量の解約が発生した時等を除いて、主としてマザーファンドの受益証券への投資を通じて、以下の投資態度で臨みます。</p> <p>② 主として金融商品取引所上場株式の中小型株式の中から、徹底したボトムアップ・リサーチに基づいて銘柄を選択し、ポートフォリオを構築します。</p> <p>③ ベンチマークはラッセル／ノムラ・ミッド・スマールキャップ指数（配当込み）とし、これを上回る投資成果を目指して運用を行います。</p>	
分 配 方 針	<p>毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分配対象額の範囲は、経費控除後の利子・配当収入および売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ・分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等は、分配を行わないこともあります。 ・留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。 	

スパークス・日本中小型株式ファンド（ラップ向け）

（参考情報）

■ ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較（2020年6月末～2025年5月末）



（注1）2020年6月～2025年5月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

（注2）全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

（注3）当ファンドは税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

（注4）上記の騰落率は直近月末から60ヶ月遡った算出結果であり、当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

※ 各資産クラスの指数

日本株・・・東証株価指数(TOPIX)(配当込み)

先進国株・・・MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円ベース)

新興国株・・・MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円換算ベース)

日本国債・・・NOMURA-BPI国債

先進国債・・・FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

新興国債・・・FTSE新興国市場国債インデックス(円ベース)

* 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

* 詳細は最終ページの「指標に関する」をご参照ください。

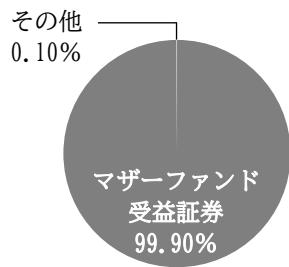
当ファンドのデータ

■ 組入資産の内容（2025年6月20日現在）

< 組入ファンド >

ファンド名	第9期末
スパークス・日本中小型株・マザーファンド	99.90%
組入銘柄数	1ファンド

< 資産別配分 >



< 国別配分 >



< 通貨別配分 >



※ 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

※ 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

■ 純資産等

項目	第9期末 2025年6月20日
純資産総額	1,111,602,449円
受益権総口数	380,881,488口
1万口当たり基準価額	29,185円

(注) 当期中における追加設定元本額は89,842,356円、同解約元本額は85,434,165円です。

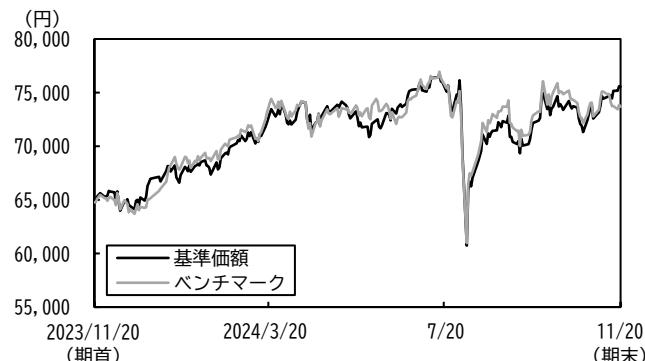
スパークス・日本中小型株式ファンド（ラップ向け）

■ 組入上位ファンド（銘柄）の内容（2024年11月20日現在）

【スパークス・日本中小型株・マザーファンド】

< 基準価額の推移 >

(2023年11月21日～2024年11月20日)



※ ベンチマークは期首(2023年11月20日)の基準価額に合わせて
指数化しております。

< 組入上位10銘柄 >

	銘柄名	業種	比率(%)
1	前田工織	その他製品	4.0
2	武藏精密工業	輸送用機器	3.0
3	NECネットエスアイ	情報・通信業	2.4
4	TREホールディングス	サービス業	2.4
5	リログループ	サービス業	2.4
6	日本光電工業	電気機器	2.3
7	タダノ	機械	2.2
8	関東電化工業	化学	2.2
9	J.フロントリテイリング	小売業	2.2
10	五洋建設	建設業	2.2
組入銘柄数		64銘柄	

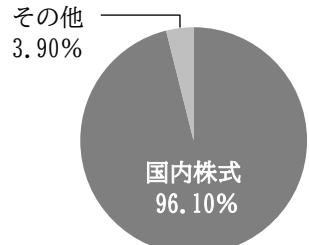
※ 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

< 1万口当たりの費用明細 >

項目	当期 2023年11月21日～2024年11月20日	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株式)	39円 (39)	0.054% (0.054)
合計	39	0.054

期中の平均基準価額は71,882円です。

< 資産別配分 >



< 国別配分 >



< 通貨別配分 >



(注1) 1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。2ページ(1万口当たりの費用明細)の項目の概要および注記をご参照ください。基準価額の推移、組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別のデータは2024年11月20日現在のものです。

(注2) 各々の表、グラフにある比率は、純資産総額に対する評価額の割合で、それぞれの項目を四捨五入しています。

(注3) 国別配分は、発行国を表示しています。

指数について

< 当ファンドのベンチマークである「ラッセル／ノムラ・ミッド・スマートキャップ指数(配当込み)」について >

ラッセル／ノムラ・ミッド・スマートキャップ指数(配当込み)は Russell/Nomura 日本株インデックスのサイズ別指数です。Russell/Nomura 日本株インデックスは、野村フィデューシャリー・リサーチ＆コンサルティング株式会社(以下「NFRC」といいます。)が公表している指数で、その知的財産権は NFRC 及び Russell Investments に帰属します。なお、NFRC 及び Russell Investments は、ラッセル／ノムラ・ミッド・スマートキャップ指数(配当込み)の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、スパークス・アセット・マネジメント株式会社がラッセル／ノムラ・ミッド・スマートキャップ指数(配当込み)を用いて行う事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。

< 代表的な資産クラスにおける各資産クラスの指標 >

日本株：東証株価指数(TOPIX)(配当込み)

東証株価指数(TOPIX)は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークです。TOPIXは、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」といいます。)の知的財産であり、JPXはTOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

先進国株：MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円ベース)

MSCIコクサイ・インデックスは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCIコクサイ・インデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円換算ベース)

MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCIエマージング・マーケット・インデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

日本国債：NOMURA-BPI国債

NOMURA-BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ＆コンサルティング株式会社(以下「NFRC」といいます。)が公表している指数で、NOMURA-BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、NFRCおよびその許諾者に帰属します。NFRCは、ファンドの運用成果等に関し、一切責任ありません。

先進国債：FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

新興国債：FTSE新興国市場国債インデックス(円ベース)

FTSE新興国市場国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

※ 上記指数はファクトセットより取得しています。